

# 清流

特定非営利活動法人 杉並区保護観察協会会報

清流 第9号

発行 2024年3月31日  
編集・発行 特定非営利活動法人  
杉並区保護観察協会  
発行責任者 青山 亨

## ご挨拶

会長 青山 亨

会員の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍の事と拝察申し上げます。

日頃は格段のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和2年より足掛け4年間に亘る新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月に季節性インフルエンザ等と同じ「5類感染症」に移行してからは、社会経済活動が活性化し、本会事業もやっと本来の姿に戻り、事業が順調に進展して参りました。

しかし4年振りの活動ですので各事業は慎重に展開せざるを得ませんでした。

5月には第一の事業目的であります更生保護活動団体に対する助成を、保護司会、更生保護女性会、杉並区社会を明るくする運動推進委員会にそれぞれ呈上することが出来ました。

第二はすぎなみフェスタにて刑務所作業製品の販売と更生保護の宣伝です。

刑務所の生産形態の変更で人気のブルー石鹼や麺類の仕入れが厳しく減量せざるを得ない状況でしたが、完売することが出来、好評を得ました。

11月には千葉刑務所での研修に多数の町会・自治会の参加をいただき、更生保護の理解を深めることが出来たとの評を得ることが出来ました。目的が達成しつつあると確信しています。

新年度は内容をより充実させるようつとめて参りたいと思います。会員皆様の更なるご協力をお願いいたします。



などが無事承認された後、杉並区保護司会、杉並区更生保護女性会、杉並区社会を明るくする運動推進委員会に対し助成金を呈上しました。

また叙勲を受けられた会員に対し、花束やお祝いを贈呈し、永年に亘るその功績を祝福しました。

多くの会員や町会の方々にも出席頂き、盛況の内に閉会しました。



## 主な事業

当協会は、その活動目的を達成するために、毎年次のような事業を行っています。

- ①助成金呈上  
杉並区保護司会、杉並区更生保護女性会への社会を明るくする運動に助成金を呈上しています。
- ②社会を明るくする運動に参加  
「ひまわりフェスタ」「すぎなみフェスタ」にて刑務所作業製品を販売しています。
- ③各種研修会  
町会の方をお誘いして、毎年刑務所訪問を行っています。
- ④広報活動  
広報誌「清流」を会員、各町会に配布しています。

## 総会

5月22日産業商工会館で令和5年度総会が開かれました。

渡部副会長が議長となって議事が進められ、令和4年度の活動報告、令和5年度の活動計画



総会の様子

## ひまわりフェスタ

第73回「社会を明るくする運動」ひまわりフェスタは、セシオン杉並が改修工事中のため今回も区役所1Fロビーでの開催となりました。

そのロビーもまた天井の耐震工事を行う関係で、強調月間の7月でなく、6月21-22日の2日間の開催でした。



当協会は今年もCAPICから仕入れた刑務所作業製品の販売を行い、好評を博しました。

その他に更生保護に関するパネル展示、リーフレットなどの配布、クイズ形式のアンケートなどもあって、2日間で延べ1,780人の方が来場されました。

## すぎなみフェスタ

11月4-5日桃井原っぱ公園で恒例のすぎなみフェスタが開かれました。杉並最大級のイベントとあって、天候にも恵まれ両日で延べ105,000人の来場者で賑わいました。

メインステージではオープニングの挨拶の後、台湾雑技団、中大杉並高の吹奏楽などの多彩なパフォーマンス、たくさんのブースでは杉並野菜の即売、パン祭りなど楽しい催しが目白押しで一日ではとても見切れなような活気に溢れていました。



そんな中で今回も更生保護3団体が共同で大型テントを借り、行交う来場者に活動をPRしました。

当会はここでも刑務所作業製品の販

売に力を入れ、多くの方々にお買い上げ頂くと共に、製品の特長や販売の意義を伝え、売り上げの一部が被害者救済に役立っていることを理解していただけたことと思います。



売に力を入れ、多くの方々にお買い上げ頂くと共に、製品の特長や販売の意義を伝え、売り上げの一部が被害者救済に役立っていることを理解していただけたことと思います。

## 施設訪問

コロナ禍のため、2019年7月の愛光女子学園訪問以来中止が続いた管外研修を4年ぶりに再開しました。

11月28日快晴の朝、青山会長を筆頭にバスに乗り込み、成田山に向かいました。

最初の訪問先の成田山新勝寺は平安中期940年の創建、弘法大師空海が自ら敬刻開眼した不動明王を祀る真言密教の大本山。江戸中期、初代市川團十郎が二代目誕生を祈願し、成長した二代目と「成田不動明王」を共演したことから「成田屋」の屋号をつけられました。

参道に構える日本家屋の落ち着いたお店で名物の「鰻重」を頂き、午後の研修に臨みました。

千葉刑務所は明治6年、寒川に未決監・既決監として設置され、明治40年に現在の地に移ります。レンガ造りの近代的な刑務所として話題を呼びました。

収容分類はLA刑期8年以上の初犯者。刑期が長いため高度な技術を習得できるのが特徴ですが、重罪犯という事で緊迫した雰囲気の中、講義の最中に非常ベルがなり、緊張が走りました。製本作業から神輿やダンスを創る工程なども見学し、最後に受刑者が丹精込めて作った品物を皆さん購入して、帰路につきました。



千葉刑務所